

千葉大学医学部附属病院で呼吸器疾患の 診療・検査を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年3月26日

呼吸器内科

呼吸器内科では、肺がんの治療が体の免疫の働きにどのような影響を与えているかを調べる研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

当院で原発性肺がんの診断と免疫チェックポイント阻害薬による治療を受け、2018年より当院で実施しております研究「免疫チェックポイント阻害薬による免疫介在性有害事象(imAE)の機序解明および危険因子の同定についての研究(PRIME study)」に参加された方。

1. 研究課題名

がん免疫療法における多階層オミクス情報の統合解析と情報科学的アプローチによる低侵襲な病態評価指標の確立

2. 研究期間

2026年承認日～2030年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

免疫チェックポイント阻害薬(ICI)の副作用である免疫関連有害事象(irAE)を事前に予測する方法を見つけるための研究です。2018年より当院で実施しております研究

「免疫チェックポイント阻害薬による免疫介在性有害事象(imAE)の機序解明および危険因子の同定についての研究(PRIME study)」で収集された試料、データを最新の解析技術を用いて再度詳しく分析し直します。これらのデータと、副作用の発症状況や治療経過を統合して分析することで、治療開始前に副作用のリスクを精度高く判定する新しい診断指標(バイオマーカー)を確立することを目指します。本研究において、個人を識別できる情報を削除して匿名化された試料・情報は、国内の受託解析機関に提供され、専門的な解析が行われます。氏名等との対応表は外部には提供されず、厳重に管理されます。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

試料： PRIME studyにおいて収集・保存された血清。

情報： PRIME studyにおいて得られた遺伝子データや、タンパク発現データ。診療録(カルテ)に記載されている年齢、性別、病名、生活歴、既往歴、併用薬、体重変化、症状、血液学的検査や呼吸機能検査等の実施済みの臨床検査結果、肺病変などの画像データ、治療内容、治療効果、健康状態など。

5. 研究組織(試料・情報を利用する者の範囲)

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院 研究責任者：呼吸器内科 教授 鈴木 拓児

【共同研究機関】

- 千葉県がんセンター研究所(研究責任者：河津 正人)
- 筑波大学医学医療系(研究責任者：宮本 崇史)
- 群馬大学生体調節研究所(研究責任者：吉成 祐人)

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院呼吸器内科および各研究機関において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細

については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

呼吸器内科 教授 鈴木 拓児

043(222)7171 内線 5464